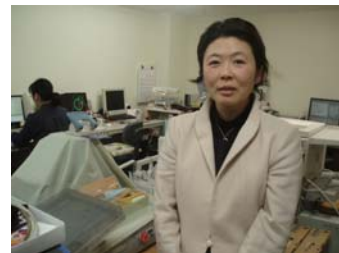


経営のヒントは障害者雇用から

- 有限会社まるみ名刺プリントセンター -



ワークシェアを活用して一人ひとりが働きやすい働き方を実現しています。職場のルールは人に合わせます。



会社Data
新宿区西新宿8-5-5 コモビル6階
従業員数8名 (<http://marumi-print.jp/>)

名刺は自分を表現するツール。西新宿にある有限会社まるみ名刺プリントセンターは名刺を専門に扱う印刷会社です。実はこの会社、8名の従業員のうち障害のある従業員が3人(精神障害、発達障害のある人)で、雇用率でいえば、なんと37%ということになります。法定雇用率(法律で決められた割り当てポイント)が2%ですから驚きです。

三嶋社長によると、雇った人にたまたま障害があったり、訓練を受け入れた人をそのまま雇い入れたなど、特別な思いからというよりは人手不足で悩む中小企業の人材確保であると話されます。そして、雇った人が長く働いてくれるように少しでも大手企業に負けない環境を整えたい、そんなことを考えながら経営してきた結果が今の姿とのことです。

当初、会社のかたちをどうしていくのか経営についていろいろと考える時期がありました。その時に多くのヒントを与えてくれたのが障害者雇用です。そこで、人を会社に合わせるのではなく会社を人に合わせる発想に変えてみました。管理的な発想を捨て、働きやすくするためのルールに変えると、社員が生き生きとなり仕事の効率も目に見えて上るようになりました。

また、浦河べてるの家^(※)で行っているミーティングなども参考にしながら、失敗OK、遅刻OK、体調のこと病気のこと何でも話せるような会社の雰囲気を作ってきました。これは精神障害のある人への配慮なのですが、人間関係で緊張することがなくなり自分の仕事に全力投球できるようになりました。結果として全体のパフォーマンスが上がりました。自分のネガティブな部分も受けとめてもらえる職場の信頼関係があると、一人ひとりが自分の役割をはたす自立した働き方になります。三嶋社長は、いろいろやってみて直接効率を目指す方法よりも、一見遠回りに見えるこの経営のやり方が自分の会社に合っているといます。

障害者雇用がなかなか進まない会社も多いなかで、反対に同社のように障害者雇用から経営のエッセンスを取り入れている会社の存在を知り驚かされます。三嶋社長は、これからは労働力不足の時代、もっと障害者雇用のことを知って活用するべきではと話されます。

※社会福祉法人浦河べてるの家(北海道浦河町)は当事者の地域活動の拠点で日本の精神保健におけるベストプラクティスのひとつに選ばれている。「当事者研究」などユニークな企画で知られている。

会社の理念は 健康な職場

「緊張させない職場」は、
近道か遠回りかはわから
ないけれど、今の経
営スタイルが会社に
合っている…。

●インタビュー●

有限会社まるみ名刺プリントセンター
代表取締役 三嶋岐子さん



三嶋岐子さん
有限会社まるみ名刺プリントセンター
代表取締役

中小企業の悩みが出発点

●障害者雇用の経緯についてお聞かせ下さい。

中小企業は大手と違って人を募集してもなかなか人が集まりません。条件面でも大手にはかなわないので継続して働き続けてもらうにはどうすればいいかが中小零細の悩みです。たまたま中小企業家同友会の関係で障害のある人の職業訓練に協力していたのですが、訓練生で優秀な人がいたのでそのまま採用しました。また、既に雇っていた従業員から、自分も障害があると聞かされ驚いたことがあります。精神障害のある人は能力や専門知識を持つ人が多く、私からは宝の山に見えます。

働きやすい時間に働いてもらう発想に立てば優秀な人材を確保できます。それには柔軟な考え方が出来るかになります。中小企業は素早く意思決定ができるので柔軟な対応が可能です。中小企業の悩みは中小企業の強みで解決します。

「経営」を考える機会になった

●障害者雇用からたくさんヒントを得たのですが。

職場環境を人に合わせるようになりました。例えば職場のルールも管理的な発想でなく、働きやすいように人にルールを合わせています。そして、気になることがあったら直接従業員に聞くようにしています。例えば就業規則についてみんなで話し合ったことがあります。みんながどんなことを考えているのかを知ることができ、社員同士も自分以外の意見を聞く機会になりました。

経営者は従業員がストレスなく仕事に集中できる環境を整えることが仕事です。私自身も管理的な発想でいるとよけいなパワーを使っているこ

とに気づかされました。

また、朝礼では緊張のない環境でスタートできるように、社員全員がその日の朝の気分や体調を報告します。互いのことを知ると信頼関係が増すので仕事で苦労しても人間関係で苦労することはありません。ハウレンソウがスムーズにいくようにもなりました。

●「健康」を会社の経営理念にしていますが。

会社の経営においては社員の健康こそが最も大事と思っています。社員が健康で長く働いてくれることが会社の活力や継続につながります。精神障害のある人の雇用を通してその重要性を感じます。

障害のことは体調の不調や気分のムラは誰しもあることで、その延長で精神疾患をとらえているので気にはなりません。自分も出産や産後うつを経験して、そう感じるできるようになりました。ワークライフバランスとは個人の働き方を越えた社内全体の「健康」のことだと考えています。

最後に、障害者雇用について経営者同士が語り合う場があるとよいと思います。知る機会があればもっと進むのではないのでしょうか。

(聞き手・文/大形利裕)

経営理念

- 使う人、受けとる人が嬉しい気持ちになる名刺作りをします。
- 私達に関わる全ての方々に、気持ちのよい企業体であります。
- 私達は健康を保ち、気持ちよく働ける職場を作りあげます。

インタビューを終えて

「中小零細は人材不足、どんな人が来ても出来ることを見つけて育てなければいけない。」なかなか進まない中小企業の障害者雇用ですが、もしかして中小企業だからこそ出来るのでは…三嶋社長のお話はそんなことを感じさせてくれました。

もう1つの就労支援、中小企業での就労。

障害の非開示、短時間、地域や人とのつながりの採用など、障害者雇用の統計には表れない「働き方」があります。たくさんの中小零細企業が支えていると思います。

「まるみ名刺プリントセンター」様を訪問すると、社内の真ん中には名刺印刷の機械があり、みんなで名刺印刷の仕事をしている雰囲気を感じられます。そんななかで、障害をもつ人が、その人らしさを発揮して自然に働いているのが一番の特徴です。

厚生労働省の調査によると、近年、障害者雇用は大企業で進んでおり、中小企業ではあまり進んでいないという結果が出ています。その理由としては、不況の影響などが上げられています。たしかにまだまだ経済環境が厳しいなかで、障害者雇用を進めるのは難しい現実があるのかもしれませんが。

しかし私見ではありますが、厚生労働省の統計には表れない中小企業の取り組みは多々あるのではないかと考えます。なぜなら、厚生労働省の統計とは、ハローワークを通じた採用で、なおかつ最低週20時間以上の労働でなければならないからです。



NPO法人NECST就労移行支援事業所ユースキャリアセンターフラッグ施設長大島みどりさん。

リカバリー(その人の望む生き方の実現)の可能性を信じ、長所を最大限に伸ばすような周囲からのサポートを大切にしています。

(<http://sc-build.jp/now/index.php>)

もともと精神障害をもつ方々の多くは障害非開示で働いてきました。地縁血縁を通じて、理解ある職場を探して働いてきた方も多はずです。そのような働き方は、厚生労働省の数字には表れないのです。

上段に構えた「障害者雇用」ではなく、自然な人と人との結びつきの「障害者雇用」こそ、ノーマライゼーション社会に寄与するものといえるでしょう。

ときに支援者の方が「企業に求められる人材になれるような訓練が必要」との思いで、頭が固くなってしまう場合があります。同社の取り組みは、私たち支援者にも多くを学ばせてくれます。

▶ 報告 平成25年度 第3回地域交流会 (集まろう・聴こう・話そう)



< お話し >

今井忠さん(NPO法人東京都自閉症協会)

金子磨矢子さん(一般社団法人発達・精神サポートネットワーク)

山本純一郎さん(一般社団法人発達・精神サポートネットワーク)

行吉陽子さん(一般社団法人発達・精神サポートネットワーク)

「発達障害のある方のストレスマネジメントを考える」 ～「働く」とストレスの上手な付き合い方～

平成25年12月7日(土) 千代田区役所4階 401会議室

発達障害のある方は独特の過敏な感覚を持つ方が多く、人によってはそれが大きなストレスとなって仕事に影響をあたえることが少なくありません。今回は、当事者から具体的な体験談をうかがい、どのような困りごとの中で働いているかを知る機会になりました。

職場において、視覚的な刺激、聴覚的な刺激、その他の刺激に日常的にさらされることでストレスや疲労がたまり、体の不調にまで発展します。会場からも何人かに体験談やご自身のお考えになった対処法などについて発言をいただきました。そして、アンケートでは発達障害の人の苦勞が少し分かった…などのご意見がありました。

コーディネーターの今井さんからは、このストレスは人的環境とも関連しており、職場の受容的な雰囲気や周囲の方の理解などが緩衝要因として関係しているとのことでした。また会場ではスヌーズレン(感覚を刺激するリラクセーショングッズ)のコーナーを設けてみなさんに体験いただきました。



疑似体験 百聞は一見にしかず

▶コラム

統合失調症。発症率 0.7%から 0.9%といわれ、100 人いれば 1 人弱が発症する、それほどめずらしくないものです。そうはいつても、「名前は聞いたことがあるけれど、どんなものかまではわからない…」という方が多いのではないのでしょうか。

一般的な症状の経過として、前兆期、急性期、回復期、安定期に分かれます。症状は多彩で個人差もあるため、単にこういうものだと説明するのは難しいですが、大きく分けると「幻覚、妄想」、「生活の障害」、「病識の障害」の 3 つに分けられます。統合失調症は「治らない」、「意思疎通もできなくなる」など誤ったイメージがありますが、こころの働きの大部分は保たれ、現在では多くの方が完全かつ長期的な回復を期待できます。

統合失調症を理解するのに「体験ができればもっとわかりやすいのに…」と思われた読者の方…実は、代表的な症状の 1 つである「幻覚、妄想」を疑似体験できるツールが開発されているんです。その名は『バーチャルハルシネーション』。アメリカで作られました。専用のゴーグルとヘッドフォンをつけて疑似体験をします。現在は内容なども改良した日本版も制作されており、インターネットでも視聴することができます。あくまで 1 つの症状例の体験ですが、理解に役立つツールとして活用できるのではないのでしょうか。

「満足度アンケート」について —より良い就労支援を目指して—

▶お知らせ

千代田区障害者就労支援センターでは、現在 112 名の区民の方にご登録いただいております。皆様のニーズをうかがい、より良い就労支援のサービスを提供するために 2 月下旬頃より、ご登録の方全員を対象に「満足度アンケート」を実施いたします。サービスの改善に活かし、今後の活動につなげていきたいと思っております。ご協力よろしくお願いたします。

就労相談室の予定

登録していなくても利用できる気軽な相談窓口です。ご家族、お知り合いの方の相談もできます。利用の場合はご予約下さい。(電話3264-2153)

3月19日(水) 9時～16時

場所/千代田区役所3階 生活福祉課相談室

地域交流会は障害者就労に関する様々なテーマで講演やイベントを行っています。

▶講演会

第4回地域交流会 千代田区障害者就労支援センター

精神障害のある方の 「働く」を考える

中小企業における
人材確保と職場定着

有限会社まるみ名刺プリントセンター
代表取締役

三嶋みちこ氏

NPO法人NECST就労移行支援事業所
ユースキャリアセンターフック施設長

大島みどり氏

と き 平成26年3月5日(水曜日)

時 間 14時00分～16時00分(受付13時30分)

場 所 千代田区役所4階401会議室
(千代田区九段南1-2-1)

対 象 企業人事に関わる方、就労支援に関わる方
テーマに関心のある方

問い合わせ 事前にお申し込み下さい。(費用はかかりません)

*当日参加の方は参加多数の場合、入場を制限させていただく場合があります。

障害者の雇用率が2.0パーセントになり、障害のある方の働く機会が広がっています。一方で中小企業での障害のある方の雇用促進はなかなか進まない状況です。今回は、精神障害のある方の雇用を通して、中小企業の人材の確保や働きやすい会社づくりを積極的に行う経営者と、そこで働く当事者の方をお招きしてお話をうかがいます。

7つの就活ステップ③ —「職業選択の基準の設定」—

▶コラム

Step3「職業選択の基準の設定」では、自分の興味や能力と結びついた職業選択肢を2つ以上あげましょう。

大事なポイントは、職業選択基準に合う「ベスト」な職業や仕事はひとつではないということです。自分の価値観・興味・能力や適性、これまでの経験、ライフスタイルと照らし合わせて、職業選択肢が自分の個性と合っているか、労働条件が自分の希望と合っているか、吟味します。

職業を選択するということは、職業生活全体や生き方の選択でもあります。自分によりふさわしい職業にめぐり会い、豊かな職業生活を送れるように、希望の職業が自分にふさわしいか、無理がないか、実現可能か、じっくり考えましょう。自分だけで考えていても絞りきれない時には、第三者の意見を参考にするのも良いかもしれません。(次号は、Step4の「求人情報の入手」となります)

就労支援のお問い合わせ

電話3264-2153 FAX3264-0927

Eメールchiyoda_syuroushien@swan.ocn.ne.jp

千代田区役所(3階)生活福祉課内 千代田区障害者就労支援センター

千代田区九段南1-2-1 ㊦102-8688

発行 ■千代田区障害者就労支援センター/発行責任者 ■猿渡裕司 2014年冬号(平成26年2月21日発行)
取材協力 ■有限会社まるみ名刺プリントセンター/大島みどり氏(NPO法人NECSTユースキャリアセンターフック)
毎回、活き活き働く障害のある人やその職場を紹介していきます。次号もご期待下さい。

